

式 辞

暖かな春の息吹が感じられる今日の佳き日に、教育振興会会長 吉田幸廣(ゆきひろ)様をはじめ、卒業生の保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに第六十一回卒業証書授与式を挙行できますことを心より感謝申し上げます。

ただいま、卒業証書を授与した65名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。心から祝福します。

皆さんは三年前、新巖木高校の第二期生として、全県募集枠あるいは西部学区枠で、それぞれの思いを胸に巖木高校に入学しました。次第に、募集枠の垣根を越え、互いを理解し、喜びを分かち合い、そして支え合いながら、つらいこととともに乗り越えてきました。皆さんは、この巖木高校での経験を通して互いの個性を尊重できる、他人を思いやる優しい心を育ててきました。さらに、体験的な活動など多彩な学習機会をとおして、心身ともに逞しく成長し、ついに就職や進学の進路先を決定し本校を巣立っていく姿を見届けることは、大変嬉しく感慨もひとしおです。

難関の福岡大学合格や実用英語技能検定2級合格など、皆さんはコツコツと積み重ねる努力の大切さを後輩たちに常に行動で示してくれました。

部活動では、アーチェリー部の九州総体、全国総体出場、インドアスポーツ部のバスケットボール公式戦での記念すべき勝利、美術部の県総文祭準特選、書道部の県高校席書大会秀作、放送部のNHK杯高校放送コンテスト県大会奨励賞などなど、全ての部活動が数えきれないほどの「巖木の奇跡」と「感動」をこの巖木の地に届けてくれました。ありがとうございます。地域の方々とともに、皆さんの成長を大変誇らしく感じた一年でした。

一方、振り返れば、新型コロナウイルスに翻弄され続けた一年でもありました。みなさんは、自分自身をそして大切な人たちを守るため、マスク着用、手指消毒、換気の徹底、昼食時の黙食など、感染拡大防止に力を尽くしてくれました。それでも一部の大会やコンテストが中止となる中、みなさんが心待ちにしていた修学旅行も、ハウステンボスでの一日研修となりました。皆さんの思いを考えると残念でたまりません。

さて、巖木高校を巣立つ皆さんに、はなむけの言葉を送ります。“You’ll never find a rainbow if you’re looking down.”「下を向いていたら、虹をみつけることはできないよ。」とは、俳優や映画監督として有名なチャップリンの言葉です。「虹」は未来への架け橋であり、夢と幸運の象徴です。みなさんもこれからの人生で辛い時も高い空を見つめ、夢を叶えて下さい。“夢は叶う、夢が叶う”のスローガンを持つ巖木高校を卒業していく皆さんに相

忘しい素敵な言葉だと思ひます。

昨年十月に開催した創立七十周年記念式典や先日のサガンズギ植樹式では、皆さんが主役となり司会進行や代表挨拶等を堂々と務め、巖木高校の長い歴史を受け継ぐ後継者として力強い働きを見せてくれました。ともに出席を賜った山口知事や落合教育長など大勢の人たちから、暖かな励ましのお言葉をいただきました。コロナの中、知事、教育長が二度も来校されるというのは極めて異例のことです。みなさんが多くの人たちに見守られ、愛され、そして期待されていることの表れです。巖木高校の校訓である「若杉の訓(おしえ)」で「経験を積み重ね 年輪を刻み 柱目(まさめ)の筋(すじ)を表して尊ばれるは杉なり」と語られています。これからの長い人生、多くのことを経験し、人に優しく力強いサガンズギとともに三十年後の百周年へと向かい成長を続け、周囲から愛され尊敬される存在となって下さい。

終わりとなりましたが、保護者の皆様一言ご挨拶を申し上げます。本日のお子さまのご卒業おめでとうござひます。お子様の晴れ姿をご覧になり感慨もひとおかと ご推察いたします。こうして卒業を迎えることができたのも、保護者の皆さまの本校の教育活動に対する深いご理解と温かいご支援のおかげであります。全教職員を代表し、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。お子様の卒業後も、巖木高校に対し側面からの御支援を頂きますと幸いです。

卒業生の皆さん、社会は君たちを必要としています。巖木高校での学びと成長に誇りを持ち、周囲に対する感謝の気持ちを忘れず、これからも成長を続けてください。皆さんのこれからの人生に幸多からんことを切に祈念して、式辞いたします。

令和四年三月一日

佐賀県立巖木高等学校

校長 坂本 康晴